大阪市 歴史的建造物マップⅠ

西淀川区

新淀川の河口付近にあり、北に神崎川、西は大阪湾に面して三方を河川と海に囲まれている。西部は阪神工業地帯の一角を占める。河口に堆積した中洲から地名には島の名前が多い。区内の神社の多くが、海上の守護神である住吉大社を勧請している。また、河川汚濁のはげしかった大野川・中島大水道も緑陰道路として再生されている。

1 伊東家住宅(旧奥山家住宅) 国登録有形文化財 ■非公開

姫島の大和田街道の南、かつて燃料店を営んだ家の店舗兼住居で、表通りに南面して建つ。昭和3年(1928)建築、木造瓦葺、東から住居・店舗・倉庫を並べ、東端住居部分は2階建て主屋と各部の高さを変えたパラペットを立ち上げ陸屋根風に見せ、外壁はスクラッチタイル貼とし、戻もコニス状に追るなど洋風意匠に腐心する。玄関上部の装飾と2階窓のデザインも繊細で美しい。

Ⓐ 田蓑神社 ■内部非公開

貞観11年(869)創建、住吉三神と神功皇后を祀る。本殿・拝殿は鉄筋コンクリート造に建て替えられたが、元の神輿並座の形式は変えず、妻入型を踏襲している。境内には「個漁民ゆかりの地」の碑があり、徳川家康が川西に向かう際、密漁船が神崎川の浮航を野の上の様で、村人が江戸へ移り東京の個島となったことに因む。御祖内の狛犬は元禄15年(1702)とあり府内でも古いものの一つである。

Ⓑ 野里住吉神社 ■内部非公開

永徳2年(1382)創建といわれ、旧中津川の西岸に面した水郷地区に建ち、境内には堤の名残の土手や野里の渡しの碑も残る。鉄筋コンクリート造の覆屋内に並ぶ4棟の本殿は、室永3年(1706)に造営、住吉造を模し、棟長の方一間で本造切妻造板葺、妻入で、住吉三神と神功皇后を祀る。2月20日に行われる一夜官女祭は、水害に苦しむこの地の人身御供の伝説を表し、府指定無形民俗文化財となっている。

Ⓒ 陰山家住宅 ■非公開

大和田街道に並行した道に面して建つ住宅。大正2年(1913)建築、南より5実間に続く石葺のアプローチ正面に玄関を設け、洋館の洋館を配した主屋、敷地南東と北西角に塀が設けられ、瓦葺で切妻一部入母屋造。当初主屋は和館だったが、昭和初期に式台部分を取り壊し、応接用に洋館を増築している。和館東側に2層吹抜の週り土間があり、梁間である吹放長長手方向に架かる2本の大梁は圧巻である。

Ⓓ 中津川堤防跡

明治時代の淀川改修工事により埋め立てられ姿を消した中津川左岸堤防跡。石垣の基止は堤防の名残である。この堤防に対峙する中津川右岸堤防は野里住吉神社にその跡が残っている。この堤防に自生してきたくろがねもち(モチノキ科)は大阪市の「緑の遺産」として保存樹に指定される。

Ⓔ 海老江八坂神社 ■内部非公開

境内に天治または大治(1124-1131)と読める石灯籠があるが、創建詳細は不明。かつては牛頭天王社と呼ばれ、明治時代初めに八坂神社に改称。境内にある一間社流造の豊里稲荷神社は宝永元年(1704)に造立され、大阪府内でも古い。現在の本殿は拝殿とともに大正11年(1922)に建築された。他に明治時代に建てられた地車庫があり、地車3基と枕太鼓1基を収容、さらに旧絵馬堂が現存している。

Ⓕ 日本基督教団 大阪福島教会 ■非公開(礼拝参加可)

建築家W.M.ヴォーリズによって設計された鉄筋コンクリート造の教会建築。完成は大正15年(1926)、戦後昭和25年(1950)に大修理を行い、現在に至る。南側道路に面した正面玄関を入り、階段で2階へあがると礼拝堂があり、礼拝堂は2層吹抜で、3階にギャラリー席をもつ。祭壇に向かって両側壁面に縦長の窓が並び、白い壁面に木製の装色が映え、最奥部はゆるやかなアーチ状のデザインである。

Ⓖ 野田のまちなみ

江戸時代野田村は旧淀川下流の漁村であった。戦国時代には度々戦火にあったが、太平洋戦争の被災は免れ、大正時代から昭和初期の長屋などの家並みが良く残る地域となっている。安治川の海運利用・国鉄野田線からの引込線可能等の条件から昭和6年(1931)この地に中央卸売市場が開設された。近年物流手法の変化を受け、港湾や引込線跡地は緑道整備されている。

Ⓗ 正蓮寺 ■内部非公開

寛永2年(1625)創建の日蓮宗寺院で、正蓮寺川(現堀渠)のほとりに建つ。本堂は明治4年(1871)に再建され、入母屋造本瓦葺に軒唐破風がつく。鐘楼の祖師堂は昭和2年(1927)の再興で、釈迦6年(1271)に難を免れたとされる川施錨鬼(かわせがき)は、川辺や船を使い遊霊を弔う仏事で、市指定無形民俗文化財となっている。現在は8月26日に行われ、船渡御は正蓮寺川から新淀川に移り執り行われている。

伝法船

- 江戸時代、伝法は海運の要津であり、上方の酒が江戸に送られ下り酒として人気を博していた。寛文元年(1661)には酒樽積廻船問屋ができ、問屋が使う伝法船は酒荷を主とし、輸送が迅速であったことから「小早(こばや)」と呼ばれた。伊丹の酒造家の後押しもあり盛んに往来し、後の樽廻船の先駆となった。

澪標 みおつくし

- 澪標とは船が安全に通れるよう海中に立てられた標識の杭のことであり、浅瀬と中洲が続く難波津の河口に古くから立てられていた。平安時代の延喜式や土佐日記にその記述があり、古歌にも多く詠まれている。
- 明治27年(1894)に大阪市章となる。江戸時代に船の往来が盛んであった伝法には澪標は生命線ともいえる。

戦災復興土地区画整理事業(港地区復興土地区画整理事業)

- 戦災復興と地下水の汲上げによる地盤沈下に伴う高潮や台風の被害を防ぐため、港区の約87%、690haに及ぶ盛土を約2m盛土した区画整理を行った。安治川河口の内港化の拡幅によって生じた土砂を利用したもので、昭和21年(1946)から45年をかけ、建物のある市街地の盛土しない住宅でも顕を見ない大規模事業である。

福島区

「福島」は淀川の土砂の堆積による難波八十島のひとつ。その名は管原道真が名付けたことから天神様と慕われ、戦前までど・中・下の福島三天神が存在した。江戸時代、安治川開削等により新地が造成、水郷風景は近郊の名勝地として発展したが、新淀川開削で多くの農地が失われた。一方この地域は太平洋戦争による被害が少なく、古い町並みが残っている。

2 ミナミ株式会社(旧川崎貯蓄銀行福島出張所) 国登録有形文化財 ■公開日あり(年1回)

JR新福島駅近くの国道2号線に面したミナミ株式会社の建物は、昭和9年(1934)に矢部又吉の設計で、鉄筋コンクリート造2階建、地下1階建の元川崎貯蓄銀行出張所として建築された。イオニア式の4本の円柱が取り付けられた正面の道路に沿って緩やかなカーブを描き、玄関の円弧状の形状付近など華やかな装飾が保持されている。かつてのホールは、現在生地販売会社のショールームとして利用されている。

野田藤

- 福島区の花である野田藤は約600年前からその美しさで知られ、吉野の桜、高雄の紅葉と共に三大名所と言われた。足利義政が詠んだ歌よりその名が広まり、豊臣秀吉も藤見物に訪れたという。玉川の春日神社は、今は小さな神社だが、往時には広大な境内に藤が一面咲き乱れていた。空襲で古木の藤は焼失したが、今も野田藤発祥の地と慕われる。

此花区

区名は古歌の一節「咲くやこの花」による。大阪湾と新淀川、安治川の河口部に接し、東西に正蓮寺川・六軒家川・伝法川が横断していた。区域は新田開発されず、明治時代末までは縄農漁村であったが、近代になり区の西域は工業・物流地帯、東域は住宅地として発展した。現在、埋立地の舞洲はスポーツ施設や緑地が整備され、夢洲も開発が進む。

3 鴉宮 国登録有形文化財 ■内部非公開

鴉宮のある伝法は、江戸時代にあっては中津川の河口に位置し、大型の廻船が頻繁に発着した水郷の中心部へ向かう小型船との中継点として栄えた。建保3年(1215)に順徳天皇が大嘗会御禊行幸の際に立ち寄ったと伝えられ、この時に鴉が献じられたとされる。本殿は明和初期の神明造、拝殿は切妻造前板葺、影向付蟇股、雲龍彫刻など華やかな装匠が施し、間口幅何も(旧本殿)は安永10年(1781)建築、一間社流造、豊かな細部意匠を持つ。

4 鴻池組旧本店洋館・和館 国登録有形文化財 ■原則非公開

旧本店は、明治43年(1910)に建てられた。洋館と和館が連接する形で造られたいわゆる和洋折衷併置型の建物で、明治建築界の重鎮・辰野金吾に師事した久保田小三郎による。洋館内部は流れるような美しい曲線と曲面、平滑な壁面などを特徴とするアール・ヌーヴォー様式を取り入れている。和館の主屋は大阪町家の外観で反対側の座敷は数寄屋造り。和洋館の木工調度品は相原家蒐にある。

5 加賀屋新田会所跡・加賀屋緑地 市指定文化財 市指定史跡 ■公開(リニューアル工事中 令和7年秋公開予定)

宝暦4年(1754)加賀屋孫兵衛が加賀屋新田の開発拠点として設けた会所兼別邸。市内に唯一残る新田会所跡で、部内の調査・補修・整備を行い「加賀屋緑地」として公開。敷地を含めた4,822㎡に及ぶ広大な部内には、旧書院・居宅・高床式倉庫台造の数寄屋風茶室「鳳鳴亭」、小堀遠州風の築山林泉回遊式庭園が現存する。景観性・美観性を備え、文人墨客が集うサロンでもあった屋敷景観を今に伝える。

Ⓘ 中谷運輸築港ビル(旧商船三井築港ビル) ■公開(営業)

中央突堤のたもとに天満屋ビルと建ち並ぶ近代建築。昭和8年(1933)大阪商船(現・商船三井)が船舶の切符売場兼船員の待合所として建築。鉄筋コンクリート造3階建、水平・垂直を強調したデザイン、スクラッチタイル貼の外壁、正面中央の装飾が特徴的である。戦後、水害対策で建築が2m高上げされ、当初の1階は1段上がり中庭埋まった。その後解体等の危機を乗り越え、1階では飲食店が営業を続ける。

Ⓙ 天満屋ビル ■非公開

昭和10年(1935)天満屋回漕店の社屋兼住宅として建築。鉄筋コンクリート造3階建、設計は当場ビルディングを手掛けた村上徹一。茶褐色のスクラッチタイル貼の外壁に、アームと直線を組み合わせたモダンなデザイン。3階にはビルに珍しい和室を設けており、天知足庵と称する水害対策の盛土で半地下になった1階は、蒸上げ前の地面の位置が残る貴重な遺構。現在は飲食店等として活用。

Ⓚ 築港赤レンガ倉庫(GLION MUSEUM) ■公開(営業)

大正12年(1923)住友倉庫が南側岸壁築造と共に建設した倉庫群。煉瓦造平屋建、昭和3年(1928)国道沿線(築港線)の開通が倉庫間にも設けられた。空襲被害を免れた数少ない煉瓦建築で、倉庫としての役割を終えた現在1棟が大阪市に移管、現在は当時の佇まいを残しながら、クラシックホテルやミュージアムや飲食店として興隆用されている。

Ⓛ 尻無川沿いの瓦問屋の景観

尻無川上流の右岸には、大正5年(1916)の川幅拡張工事以後に形成された全国的にも珍しい瓦問屋のまちなみが残る。淡路島で製作された瓦は、船舶で大阪の尻無川へ運搬され、岸壁に並ぶ瓦問屋の小屋内のベルトコンベヤーで荷揚げされた。ニッパーで瓦を切断された、現在はトラックなど直送に輸送形態が変わったが、江戸時代以来の河川運搬の面影を残す貴重な水辺の景観である。

Ⓜ 西住之江の近代長屋 ■非公開

昭和初期、住之江土地区画整理組合事業地区に主に竹中住之江土地株式会社が建設した総住宅経営部門合計250戸以上の住宅を建設。多くが長屋建の賃貸だった。近傍の長屋は木造2階建瓦葺の平均5室で、主に生垣で囲った前庭を持つ特徴的な洋風外観、2階の張り出し窓・装飾のデザインバルコニー・玄関横の飾り窓など天を競らう。「かいや案内」(現存)によると、家賃は当時の2階建平均よりやや高めだった。

Ⓝ 名村造船所大阪工場跡地(クリエイティブセンター大阪)

北加賀屋は木津川の水運を利用し、大正時代から造船業が発展した。名村造船所は明治6年(1871)に再建され、入母屋造本瓦葺に軒唐破風がつく。四隻の祖師堂は昭和2年(1927)の再興で、釈迦6年(1271)に難を免れたとされる川施錨鬼(かわせがき)は、川辺や船を使い遊霊を弔う仏事で、市指定無形民俗文化財となっている。現在は8月26日に行われ、船渡御は正蓮寺川から新淀川に移り執り行われている。

Ⓞ 加賀谷家防空壕 ■非公開

加賀屋新田会所跡から南に位置する住宅地に、昭和20年(1945)現所有者の祖父が、近隣の人々を避難出来るように建築。高さ2.2m、幅4.1m、奥行き5.2m、鉄筋コンクリート造で、横に2か所、裏に1か所の窓、屋根に1か所の通気口が設けられている。内部は3室に分かれており、トロッコ軌道跡・工場棟を活用文化施点として活用している。事務所棟最上階には無柱の広大な原寸大製図室が残る。近代化産業遺産認定。これを起点にアートによるまちづくりを推進。

Ⓟ 暗渠社 ■非公開

敷地の北西は尻無川に面し、北と東は街路に面する。北東に門を開き、木造一部煉瓦造の高塀を巡らす。主屋は木造つし2階建桟瓦葺、外壁は漆喰塗と一部焼杉板貼、梁材に和釘が使用され、建築は明治時代に遡ると推定。主屋南面に木造2階建入母屋造桟瓦葺の別棟と土蔵の土蔵が配される。現在は、昭和21年(1946)に設立の一般財団法人感養社が事務所として活用し、慰学金給付や福祉団体助成を行う。

Ⓠ 中山製鋼所本社 総合管理センター ■非公開

木津川と木津川運河に挟まれた船町に、大正8年(1919)に創業、創業者の中山安治郎を手がけた村野藤吾の設計により、昭和30年(1955)に地上4階地階1階建(現在は地上4階建)の本社事務所を建築。外観はタイル貼で、大きさの違うピンコ状の変化を つけ、単調にならないように工夫が施されている。昭和56年に、窓の庇を取り除くなど一部の内外装を改修。令和3年に耐震改修により壁や柱を補強する。

Ⓡ 渡船場の景観 ■非公開

古来より大阪では数多くの川が流れ、人々の往来のための渡船場が各所におり、重要な交通機関であった。昭和10年(1935)には31か所の渡船場があったが、橋梁の架設などと道路施設の整備に伴い次第に廃止され、現在は大阪市が運営する無料の渡船場が8か所残っている。そのうち7か所が大正区にあり、地域の人々の生活に欠かせない足として、日々多くの人に利用されている光景は珠に歴史を感じさせる。

Ⓢ 大正内港はしけ桟橋 ■非公開(船舶保留施設)

戦災や高潮により甚大な被害を受け、昭和22年(1947)から大阪港復興計画の一環として、河口の監視建造による内港化と波浪土砂による臨港埠頭地区の全面盛土を実施する。昭和41年から鉄鋼や雑貨を扱う国内貨物基地として機能し、平成16年には年間取扱高は125万トンに達した。昭和43年から、はしけの所留場所の整備を進め、昭和50年に内港化工事の終了とともに、300mのはしけ桟橋を建設した。

近代大阪の長屋

大阪市は明治時代後期から重工業の発展により大正14年(1924)には人口211万と日本一の都市となった。この時期に大量に供給された住宅の約90%が借家と推計され、昭和15年(1940)の調査(大阪市・社会部報告第251号「本市における貧家の状況」)ではその総住宅戸数の95%が長屋だった。これは、近代大阪の住宅が江戸時代の借家・長屋の伝統を受け継いでいたことと、明治時代から昭和初期にかけての急速な労働人口増加により、臨海部などの工業地域では延10坪未満の長屋が大量供給された。その一方で、大正8年施行の市街地建築物法による建築線指定と、都市計画法による土地区画整理によって、整然とした長屋街区が広大な面積に形成されていった。門構え・塀・前栽2階建数と緑側を持つ部屋風の長屋や、前面に洋館の応接間を下屋として突き出した和洋折衷型の長屋、大型の洋風長屋、銅板の箱軒を持つ長屋など、多彩で豊かな長屋が建設された。昭和12年頃から、統制経済や防火規制の強化などの戦時体制の影響により、長屋の建設の停滞が始まった。一方、昭和になってからは、玄関・トイレ・台所共同で各部屋は半畳下でつながる木造賃貸アパートが登場した。

南港ポートタウンのニューカーソーン

- 南港ポートタウンは、人工島咲州中央部に約100haの敷地に16haを超える緑地を持つ計画人口4万人の住宅団地。昭和48年(1973)の計画時から、全区域内をニューカーソーンと、駐車場は外周部に配する歩行者ネットワークを採用している。地下鉄コスモスクエア駅から南港ポートタウン線(ニュートラム)に乗り換えて、ゆとりある住宅地として発展している。

住之江区

区名は古代の地名による。市湾岸部南端に位置し、大阪市24区で最大の面積(20.68㎢)を持つ。区域の大半は、加賀屋新田の開発、昭和以降の南港の埋立地が占める。戦後の区画整理事業では、大正区の貯木場等木材産業を平林地区に移転。南港埋立て区域の約1/2に当たる新地約9.37㎢が誕生し、港湾都市としての整備が進められた。

Ⓘ 中谷運輸築港ビル(旧商船三井築港ビル) ■公開(営業)

中央突堤のたもとに天満屋ビルと建ち並ぶ近代建築。昭和8年(1933)大阪商船(現・商船三井)が船舶の切符売場兼船員の待合所として建築。鉄筋コンクリート造3階建、水平・垂直を強調したデザイン、スクラッチタイル貼の外壁、正面中央の装飾が特徴的である。戦後、水害対策で建築が2m高上げされ、当初の1階は1段上がり中庭埋まった。その後解体等の危機を乗り越え、1階では飲食店が営業を続ける。

Ⓙ 天満屋ビル ■非公開

昭和10年(1935)天満屋回漕店の社屋兼住宅として建築。鉄筋コンクリート造3階建、設計は当場ビルディングを手掛けた村上徹一。茶褐色のスクラッチタイル貼の外壁に、アームと直線を組み合わせたモダンなデザイン。3階にはビルに珍しい和室を設けており、天知足庵と称する水害対策の盛土で半地下になった1階は、蒸上げ前の地面の位置が残る貴重な遺構。現在は飲食店等として活用。

Ⓚ 築港赤レンガ倉庫(GLION MUSEUM) ■公開(営業)

大正12年(1923)住友倉庫が南側岸壁築造と共に建設した倉庫群。煉瓦造平屋建、昭和3年(1928)国道沿線(築港線)の開通が倉庫間にも設けられた。空襲被害を免れた数少ない煉瓦建築で、倉庫としての役割を終えた現在1棟が大阪市に移管、現在は当時の佇まいを残しながら、クラシックホテルやミュージアムや飲食店として興隆用されている。

Ⓛ 尻無川沿いの瓦問屋の景観

尻無川上流の右岸には、大正5年(1916)の川幅拡張工事以後に形成された全国的にも珍しい瓦問屋のまちなみが残る。淡路島で製作された瓦は、船舶で大阪の尻無川へ運搬され、岸壁に並ぶ瓦問屋の小屋内のベルトコンベヤーで荷揚げされた。ニッパーで瓦を切断された、現在はトラックなど直送に輸送形態が変わったが、江戸時代以来の河川運搬の面影を残す貴重な水辺の景観である。

Ⓜ 西住之江の近代長屋 ■非公開

昭和初期、住之江土地区画整理組合事業地区に主に竹中住之江土地株式会社が建設した総住宅経営部門合計250戸以上の住宅を建設。多くが長屋建の賃貸だった。近傍の長屋は木造2階建瓦葺の平均5室で、主に生垣で囲った前庭を持つ特徴的な洋風外観、2階の張り出し窓・装飾のデザインバルコニー・玄関横の飾り窓など天を競らう。「かいや案内」(現存)によると、家賃は当時の2階建平均よりやや高めだった。

Ⓝ 名村造船所大阪工場跡地(クリエイティブセンター大阪)

北加賀屋は木津川の水運を利用し、大正時代から造船業が発展した。名村造船所は明治6年(1871)に再建され、入母屋造本瓦葺に軒唐破風がつく。四隻の祖師堂は昭和2年(1927)の再興で、釈迦6年(1271)に難を免れたとされる川施錨鬼(かわせがき)は、川辺や船を使い遊霊を弔う仏事で、市指定無形民俗文化財となっている。現在は8月26日に行われ、船渡御は正蓮寺川から新淀川に移り執り行われている。

Ⓞ 加賀谷家防空壕 ■非公開

加賀屋新田会所跡から南に位置する住宅地に、昭和20年(1945)現所有者の祖父が、近隣の人々を避難出来るように建築。高さ2.2m、幅4.1m、奥行き5.2m、鉄筋コンクリート造で、横に2か所、裏に1か所の窓、屋根に1か所の通気口が設けられている。内部は3室に分かれており、トロッコ軌道跡・工場棟を活用文化施点として活用している。事務所棟最上階には無柱の広大な原寸大製図室が残る。近代化産業遺産認定。これを起点にアートによるまちづくりを推進。

港区

区名は大阪港による。北は安治川、東は西区、南は尻無川、西は大阪湾に面する。区の大半は近世の新田開発。大阪港は明治30年(1897)の築港と修築で全国一の貿易港になった。戦災で区内の88.6%を焼失したが、戦後復興を遂げた。現在は港湾機能のほとんどを南港・北港へ譲り、客船ターミナルを担っている。

戦災復興土地区画整理事業(港地区復興土地区画整理事業)

- 戦災復興と地下水の汲上げによる地盤沈下に伴う高潮や台風の被害を防ぐため、港区の約87%、690haに及ぶ盛土を約2m盛土した区画整理を行った。安治川河口の内港化の拡幅によって生じた土砂を利用したもので、昭和21年(1946)から45年をかけ、建物のある市街地の盛土しない住宅でも顕を見ない大規模事業である。

大正区

区名は木津川に架かる「大正橋」による。区の三方を木津川、尻無川、岩崎運河に囲まれ、水運の発達から明治時代以降、臨海工業地帯として発展。沖縄県からの移住者も多く集まった。戦後都市区画整理事業による臨港倍地区の全面盛土を実施。地下鉄工事の際の土砂により中央部に千鳥ヶ淵の景観を造成、区民のコミュニティの場となっている。

Ⓡ 渡船場の景観 ■非公開

古来より大阪では数多くの川が流れ、人々の往来のための渡船場が各所におり、重要な交通機関であった。昭和10年(1935)には31か所の渡船場があったが、橋梁の架設などと道路施設の整備に伴い次第に廃止され、現在は大阪市が運営する無料の渡船場が8か所残っている。そのうち7か所が大正区にあり、地域の人々の生活に欠かせない足として、日々多くの人に利用されている光景は珠に歴史を感じさせる。

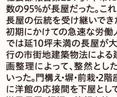
Ⓢ 大正内港はしけ桟橋 ■非公開(船舶保留施設)

戦災や高潮により甚大な被害を受け、昭和22年(1947)から大阪港復興計画の一環として、河口の監視建造による内港化と波浪土砂による臨港埠頭地区の全面盛土を実施する。昭和41年から鉄鋼や雑貨を扱う国内貨物基地として機能し、平成16年には年間取扱高は125万トンに達した。昭和43年から、はしけの所留場所の整備を進め、昭和50年に内港化工事の終了とともに、300mのはしけ桟橋を建設した。

住吉区

区名は住吉大社の鎮座による。大阪市の南端、北は阿倍野区、東は東住吉区、南は大和川、西は住之江区、一部西成区と接する。江戸時代は河内地域、大正期に宅地化が進み南海電鉄の本線・高野線・軌道線開通や東成土地建物株式会社の住宅経営で高級住宅街となり今も景観を留めている。更に帝塚山学院など錚学校の設立で大阪屈指の文教・住宅地区となった。

18 住吉大社 国宝 重要文化財 他 ■公開



四本宮すべてが海に向かって西面し、西から第三本宮、第二本宮、第一本宮の順に舷に並び、第三本宮の南に第四本宮が並ぶ。各本宮は、国宝である本殿、割拝殿形式の幣殿と本殿との間を客殿で構成されている。幣殿及び渡殿も本殿と同じ年の建築で重要文化財である。本殿の周囲には廻廊はなく、板玉垣をめぐらし、さらにその外に荒垣が巡る。本殿は切妻造「住吉鳥居」と称ばれる特有の角柱の鳥居に接続する。

19 生根神社 府指定文化財 ■一部公開

延喜式内社や少彦名命を祭神とする。本殿は慶長5年から慶長6年(1600頃)にかけて淀君の寄進により建てられたと伝える。一間社流造檜皮葺で正面に千鳥破風・軒唐破風を付し、極彩色豊かな壁面とあいまって桃山時代の建築様式を残している。境内に江戸時代後期に建てられた天満宮があることから、通称「菅の天神」とも呼ばれる。文明14年(1482)造像の木造天神座像は大阪市指定有形文化財。

20 荘厳浄土寺 市指定文化財 ■公開

真言律宗寺院。平安時代中期の創建と伝える。一時廃絶も応永年中(1084)、住吉大社宮司津守国基によって再興、住吉大社の三大寺の一、唯一残存寺院である。本堂は18世紀前期の再建と考えられ、木造宝形造本瓦葺であり、内陣を外陣・脇陣・後戸で囲う中世密教寺院の様式を持つ。表門は江戸時代前期に建築された切妻造本瓦葺の薬医門であり、この形式の門としては市内最古と思われる。

21 住乃江味噌 池田家本舗(池田家住宅) ■公開(営業)

国登録有形文化財

熊野街道と住吉街道との交差点にある店舗兼住宅であり、明治25年(1892)頃に建てられた。木造2階建入母屋造桟瓦葺平入で2階には虫籠窓を設けている。元禄年間に醤油業をはじめ、のちに味噌の醸造を行ったと伝える。現在も「住乃江味噌」の製造販売を行っている。老舗の風格を示す町屋建築であり、屋根に設置された高灯篭とともに地域の歴史的景観の核として貴重である。

22 大阪公立大学1号館(旧大阪商科大学本館) ■非公開

国登録有形文化財

大阪商科大学の本館として、昭和9年(1934)に建設された鉄筋コンクリート造3階建一部地下1階の建物。北面する中央の玄関上部に張が鎧え、その両翼を東西に長く伸ばす。南側には講堂を設けている。柱型梁型とそれらの間に設けられた窓というた単純な幅体はモダニズム建築の典型であるが、所々に設けた円形平面のバルコニーが全体の雰囲気を柔らかいものにしている。現在も大阪公立大学の学舎として使用。

23 市川家住宅(旧亀岡家別荘) 国登録有形文化財 ■非公開

大阪船場の順慶町に本宅のあった実業家の亀岡家が大正時代後期に別荘として建築。昭和22年(1947)に市川家の所有となり、庭園とともに建築当時の姿を維持している。主屋と東・南門及び隠・北門及び待合・南中門からなる。主屋は木造2階建で和風を基調とするが、2階洋室及び各自の時刻目板張こと、高欄付きベランダを設けている。戴は切妻造2階建本瓦葺で現在はフラメンコスタジオに活用。

24 瀧山邸(クーネル倶楽部) ■非公開

昭和8年(1933)竣工の木造2階建寄棟造の住宅である。屋根には茶褐色のスペイン瓦五が葺かれ、黄土色の外壁、丸窓などとともにスパニッシュ様式であるが、南側部分は桃瓦葺の和風住宅の様式であり、和洋折衷の住宅でもある。1階部下定であり、南側に和室、北側に簡素ながらある応接室と玄関、水回りを設けている。ステンドグラスや簡暖炉、玄関廻りの美術タイルなど建築当時のまま。

西成区

区名は古代の郡名による。都市開発の中核は南北に発達した鉄道や道路などの交通路で、関西空港や近畿各地へのアクセスが良好で住宅化が進む。大阪市顕彰史跡の天下茶屋跡などの旧跡、太阪フルハーモニー交響楽団の活動拠点、南津守さくら公園スポーツ広場など、多くの歴史・文化・観光資源が存在する。また、特色あるものづくり企業が立地する。

6 鯛よし百番 国登録有形文化財 ■公開(営業)

大正時代末期～昭和初期の建築とされ、旧長田逆瀬川東堤の角地に建ち、当時の遊廓建築を今日に伝える貴重な近代木造数棟建築。木造2階建入母屋造桟瓦葺、2階に朱塗の親宝珠高欄を巡らし、角を隅切りとし玄関に唐破風屋根を付ける。内部は日光東照宮竈明門や住吉大社の太鼓橋を模したり、極彩色の格天井や壁絵・襖絵など部屋毎に趣向を凝らす。現在は料理店として営業。大阪市の修景事業やクラウドファンディングなどで修復。

7 久金属工業株式会社 国登録有形文化財 ■公開日あり(年1回)

大正4年(1915)創業の久金属工業は、医薬品やガラス瓶のキャップや多様な容器を製造する。昭和9年(1934)に現在地へ移転。室戸台風等の自然災害や空襲を経ながらも、移転当初からの建物が新しく次々に建て換え、外観をタイル貼としフランス瓦葺の小窓を付けた事務所や旧第二工場・旧防空壕等の建物8棟と、特徴ある意匠の工場が国登録有形文化財。これらが一体となって戦前の工場の景観を今に伝える。

■旅館営業・公開日あり(年1～2回)

8 桜家(旧角谷家住宅) 国登録有形文化財

明治時代後期、農村から急速に市街化した地域にあり、南海電鉄岸里玉出駅の東側に位置する つし2階建の町家で大正2年(1913)建築。南北道路に面した平入、北面は切妻造、南面は入母屋造の主屋と、東側に南北に2階建入母屋造の土蔵が建ち並ぶ。屋敷の配置は江戸時代末期の建築。木造平屋建て表門、もとは茅葺であったと思われる大和棟風の屋根を金属板で葺っている。国登録有形文化財の旧応接処や物置蔵・文書蔵・土蔵を用いており、材木商らしいつくりがみられると同時に、2階には洋室を設けるなど昭和初期の2階建住宅の姿を今に伝える。

安治川水門

尻無川水門

木津川水門

阿倍野区

明治時代中頃、鰻池あたりに天下茶屋遊園地が建設されたことにより良好な住宅地として注目され、馬車鉄道が開通。地下鉄谷町線開通事業、大鉄百貨店の開業、地下鉄の延伸と順次進められたことにより都市整備が進展。現在、天王寺駅周辺は大阪の南の玄関口として各種の交通機関が集結、快適な生活環境をめざして、都市基盤の整備などが進められている。

9 大阪府立工芸高等学校本館(旧大阪市立工芸高等学校本館) 市指定文化財 ■非公開

大正12年(1923)4月開校、同13年10月校舎竣工と共に現在地に移転。本館は鉄筋コンクリート造3階建、小屋組は鉄骨トラス、二階の外壁はレンガ積み、玄関入口を大アーチとし、縦い放りを持つマンサード風腰折れ屋根をかける。敷地の北西隅に道路に沿って配置、隅部に門柱を設けて玄関を設け社会との密接な連携を意図したという。2022年、大阪府立となる。近代化産業遺産。

10 源正寺楼門 国登録有形文化財 ■内部非公開

浄土宗知恩院の末寺で中央区上本町の旧寺町にあったが、鉄道敷設等により大正12年(1923)に現在地に移転。本堂他5棟を移築するが、大阪大空襲でほとんどが焼失、明治22年(1889)建築の楼門は戦災を免れた。初重柱間を塗込める竜宮造で、上層は出組、二軒繁垂木、入母屋造本瓦葺。蟇股や肘木の形式・絵様に近代らしい意匠が充実する。解野街道に面し竜宮門として親しまれている。蔵は明治後期トギャリーに再生され、近年まで20年間地域の人々に開かれていた。現在はチーズケーキの店として営業している。

11 阿倍王子神社 国登録有形文化財 ■内部非公開

「摂州東成郡阿倍権現縁起」によれば仁徳天皇による創建とされ、熊野九十九王子の一つで、大阪府内で唯一旧地に現存する王子社。天和2年(1682)建築、明治41年(1908)年に移築・改修され、本殿は三間社流造、正面は軒廻縁風付で側面中柱が棟木まで延びる、江戸時代後期以前に建築の遡之巣脇奇神社木殿(旧別山八幡神社本殿)を一間社流入妻庇造権殿を東で軒唐破風付、小社などが各棟立ち並ぶ。

12 安倍晴明神社 国登録有形文化財 ■内部非公開

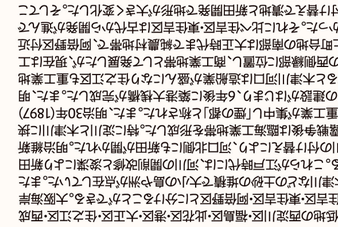
熊野街道沿いにあり、社伝では安倍晴明没後2年の寛弘4年(1007)創建とされる。大正14年(1925)竣工の木殿・拝殿及び幣殿・透塀は京都伏見稲荷であった吉田理次郎の設計。一間社流造銅板葺の本殿が高い切石積の基壇の上に建ち、細部は大仏様木鼻や中世風の蟇股を用いる。拝殿及び幣殿は本殿と調和した端正な鐵倉時代の復古的意匠で、透塀は大阪銅板葺で拝殿の背面から延び本殿の周囲を巡る。

13 佐野家住宅 国登録有形文化財 ■一部公開(事前予約要)

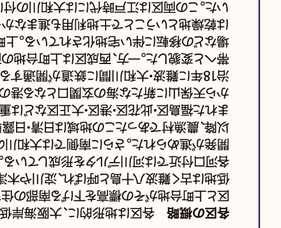
外洋航路の仕事をり退後、収入を得るための貸家を併設した住居を昭和初期に建築。街路に北面して建つ木造2階建、桟瓦葺、間口3間半の本宅と間口2間半の貸家の一体に瓦葺の切妻屋根をかける。貸家1階には土間を造り込む。外壁はモルタル塗下見板張とし2階に縦長に2列に窓を配置。隣家に門柱を設けて玄関を設け社会との密接な連携を意図したという。2022年、大阪府立となる。近代化産業遺産。

14 萬代家住宅 国登録有形文化財

住吉大社



①本宮 本殿4棟 国宝 江戸時代後期



境内 市指定史跡

住吉大社は、全国2,300社余の住吉神社の総本社である。伊弉諾尊が禊祓を行われた際に海中より出現された住吉大神（底筒男命・中筒男命・表筒男命）と鎮斎の神功皇后を祭神とする。延喜式内名神大社、朝廷奉幣二十二社の一社、摂津国一之宮、旧官幣大社に列せられた。出現の由来から祓を司る神であり、仁徳天皇の住吉津の開港後は遣唐使・遣唐使に代表される海上交通の守護神として崇敬をあつめ、王朝時代には和歌・文学の神としてあるいは産業・貿易・外交の祖神と仰がれている。住吉大社の四本宮の本殿は国宝に、各本宮の幣殿及び渡殿は重要文化財に指定されている。本宮域の北側に鎮座する大海神社は、海幸山幸神話に由来する豊玉彦と豊玉姫の二柱を祀り、摂社の中でも最も社格が高い。本社と同じ「住吉造」の本殿で、四本宮よりも古く宝永5年(1708)に造営されたものである。幣殿及び渡殿・西門と共に重要文化財に指定されている。大海神社に並列、西面して摂社志賀神社が鎮座し、一つの社殿内に少童三神が並祀されており、本殿は境内では数少ない流造社殿である。本宮の南側には摂社若宮八幡宮があり、江戸時代後期の造営。その南正面にある鳥居は柱に角柱を用い、貫を柱内で納め、反りのない島木・笠木を重ねる独特の形式であり、明治40年(1907)と建築年代も明らかであり貴重である。摂社船玉神社は延喜式にも記載された古社で、住吉大神とは表裏一体の関係として尊崇されてきた。現在の本殿は明治時代のものであり、「住吉造」に準じた形式とする。その他に毎年6月14日の国重要無形文化財指定されている御田植神祭、更に「初座まいり」の巡祥社や「白馬神事」の神馬舎など、年間約140件の多彩な神事と関連した文化財も数多く存在する。また、住吉大社の象徴ともいわれる名勝の反橋（太鼓橋）は大阪みどりの百選に選定されている。国や市の史跡に指定され、日本遺産の構成文化財としても登録されており、数多くの有形無形の文化財が悠久の歴史を今に伝えている。

②幣殿及び渡殿4棟
重要文化財 江戸時代後期

⑤南高蔵・北高蔵
重要文化財 桃山時代

⑧摂社志賀神社本殿
国登録有形文化財 江戸時代前期

⑪末社五社本殿
国登録有形文化財 明治時代後期

③摂社大海神社 本殿・幣殿及び渡殿
重要文化財 江戸時代中期

⑥末社招魂社本殿
重要文化財 江戸時代前期

⑨摂社船玉神社本殿
国登録有形文化財 明治時代前期

⑫南絵馬殿
国登録有形文化財 昭和時代前期

④東楽所・西楽所・石舞台
重要文化財 桃山時代

⑦神館
国登録有形文化財 大正時代

⑩末社楠珺社本殿・拝殿
国登録有形文化財 昭和時代中期

⑬神馬舎
国登録有形文化財 昭和時代前期

⑭斎館
国登録有形文化財 江戸時代後期

⑱西大鳥居
国登録有形文化財 江戸時代前期

⑮御文庫
国登録有形文化財 江戸時代中期

⑲種貸社

⑯末社貴船社本殿
国登録有形文化財 江戸時代後期

⑳浅澤社

⑰摂社若宮八幡宮本殿・鳥居
国登録有形文化財 江戸時代後期
明治時代後期

㉑大歳社

初座まいり（はっつさん）

- 毎月初めの辰の日に、種貸社・楠珺社・浅沢社・大歳社の順で参拝し、商売や家庭の発達繁栄を祈る慣わし。4年を一区切りとして、48回参拝すれば、四十八辰、つまり始終発達するということで満願成就となる。
- 「みのりまいり」や「招福猫」を授かるべく、遠方から訪れる人も多く、早朝から多くの参拝客で賑わっている。

住吉蔵めぐり

明治時代末期頃の帝塚山・住吉地区はその多くが田畑であり、いわゆる農村地域であった。南海電車線路敷の西側には農村時代の区画が残っており、蔵を有する住宅も存在する。東側は明治45年(1912)から始まる耕地整理事業のため、船場の豪商などの手によるお屋敷が次々と建てられ、郊外住宅地へと変貌する。それらの住宅にも蔵がつきものであった。どちらの蔵も住宅としての機能に付随する蔵であることから、小振りであった。これらの地域はその後に始まる土地区画整理事業は行われていないので、蔵も住宅などとともに多くが残り、蔵を有する大きなお屋敷が帝塚山・住吉地区の景観を形作っている。近年では、大きな宅地であることから、マンションなどの開発も進み、昔の景観は損なわれつつある。しかしながら、蔵をカフェやスタジオ、あるいは居室として再利用するなど、住民による保存も行われている。